

鈞

畧譜

松平

久松 深淺

二百十一冊、白



庫	文	閣	内
五六	二	三六〇八	和
函	一	八	杏
一〇	冊	號	類
架			



内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211 (128)
函號	156 17

34
395

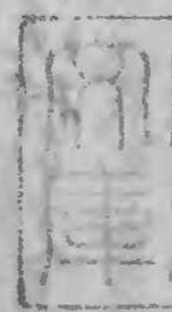
東照宮御式



松平之御外家忠貞

之千六百石

家茂
根
松



惣之清 初長之卿

忠貞

孝文長八年

東照宮御式

各使役御式

記録御用所

永和六年四月十日
 足利氏の言に頂戴。之れを以て
 徳兵衛清正路の佐守。日本
 二月十日城が依り。死す。二
 菜之原頼田部。津波村。光吉
 に舞

主膳 初長二郎

忠

之れを以て
 永和六年十二月二日
 足利氏の言に頂戴。之れを以て
 徳兵衛清正路の佐守。日本
 二月十日城が依り。死す。二
 菜之原頼田部。津波村。光吉
 に舞

年十二月十日病歿○貞享二年
十二月十日病歿○貞享二年
十二月十日病歿○貞享二年
十二月十日病歿○貞享二年
十二月十日病歿○貞享二年

物言部 物言部

忠福

貞享元年七月十九日病歿○貞享二年

二年十二月廿八日病歿○貞享二年
二年九月病歿○貞享二年
二年九月病歿○貞享二年
二年九月病歿○貞享二年
二年九月病歿○貞享二年
二年九月病歿○貞享二年
二年九月病歿○貞享二年
二年九月病歿○貞享二年
二年九月病歿○貞享二年
二年九月病歿○貞享二年

忠和

無之那 初新之那 新之那

寛政六年八月廿三日
寛政六年十二月廿九日
享和二年六月十九日
○以享和二年十二月九日
佛之入久小二百
年二月廿日死
葬

久

孫を那 初を那

貞享四年十二月九日
元享四年十二月廿九日
元享五年十月廿九日
死中九茶は年小葬
○惣領之那那忠晴家家の長子と
なりし久小副子ありし新之那

忠量

新嘉坡 初陽所 長太郎

天忠福四男

家山 乙未年二月廿七日長子〇月七

〇日午時

年 初陽家孫 小嘉慶清〇嘉保九年

付女六日死 乙未年二月廿七日守中壽

忠晴

長太郎 初陽所

實日姓孫 長太郎 〇月九

嘉保八年十二月四日長子〇月九
年十一月四日自家孫 山嘉慶清〇月八
年二月十七日死 乙未年二月廿七日守中
壽

忠頼

惣太郎 初陽所

實日姓孫 長太郎 〇月九

嘉保八年八月八日長子〇

忠明

勘定書 油原左衛門

実日性忠頼二男

享和元年四月廿一日書子日記
 元年九月七日家書山崎書信日記
 元年正月廿二日山崎性頼日記
 六月十九日大坂目付代七月廿八日
 日中元年四月廿日届湯○天の
 二月十一日度書○日年十二月十八日

布衣の月七年一月廿一日
 見の月八年一月廿日
 八月廿日瑞府お湯の月廿日
 見先の月八年一月廿日
 七月廿日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

大猷院殿

○ 松平 深謙

源姓

三八百石

家茂丸自奉骨筋
根登

松平惣三郎忠貞自次男

長子清 初新之郎

忠治

致仕意樂

天保二年九月廿一日出仕組
石部丸三首領。万治五年二月

十一日 沖服 宣仁二年四月十日老行
月廿一日 半人 宣仁二年八月
十一日 宣仁二年八月
十一日 宣仁二年八月
十一日 宣仁二年八月
十一日 宣仁二年八月
十一日 宣仁二年八月
十一日 宣仁二年八月
十一日 宣仁二年八月
十一日 宣仁二年八月
十一日 宣仁二年八月

兼治

宣仁二年 八月 又宣

宣仁二年 七月 廿七日
宣仁二年 九月 廿七日
宣仁二年 十月 廿七日
宣仁二年 十一月 廿七日
宣仁二年 十二月 廿七日
宣仁二年 正月 廿七日
宣仁二年 二月 廿七日
宣仁二年 三月 廿七日
宣仁二年 四月 廿七日
宣仁二年 五月 廿七日
宣仁二年 六月 廿七日

百有九才長年為自友多初の國
○二年八月廿日死字中兼月
年山壽

自友

喜重長男 初又山脚 日記 兼郎

寛文三年二月廿日初九日正室六壽三月
大元中時絶○日八年二月廿七日死兼三自友
○元禄六年七月廿日父老後三音信と地○喜保
五年四月廿日死○喜保

長多清

忠郷

之福六年九月廿日初九日同十年
十二月十八日家終○山壽長傳の喜保
四年二月廿七日山壽長傳の同六年
年二月廿日山壽長傳の同六年
夫と山壽長傳の同六年
二月廿日山壽長傳の同六年
宝曆八年四月廿日老免山壽長傳の同六年
故○山壽長傳の同六年十二月廿日死八子四
歳山壽長傳の同六年

某 初之解

多長男

寛文三年正月廿日初九日正室六壽三月

大元中時絶○日八年二月廿七日死兼三自友
○元禄六年七月廿日父老後三音信と地○喜保
五年四月廿日死○喜保

忠元

孫四郎 源四郎

享保四年八月廿八日卯時九時十五分誕生也澤橋子

忠壽

實因村令毛名直忠候

享保四年十二月十九日卯時生也子の以
初三年四月廿一日家督の口年入
月九日半書院書の首改七年正月
又首改の書行候也

右左衛門

忠候

天明二年九月廿九日初見の首改の
年十月十二日藩射上之次候也

[Faint, illegible handwritten text on the right page]

台徳院殿

○



松平

源姓

高子殿

[Small vertical text: 高子殿 松平源姓]

松平之殿

庄九郎

志一

[Vertical text: 父名在左之方]

[Vertical text: 台徳院殿]

[Vertical text: 分仰]

小室の志 長治三年 大坂再攻の時
徳川が六月七日大坂の多門籠城を破る
少北入致北逃す 是れ 徳川 田村
津村 村中 寺本 寺本 寺本

兵庫頭 初掃部

志隆

美濃志隆男

兄致北の後 元和三年
志隆 徳川 寺本 寺本 寺本 寺本

知行 志隆 寺本 寺本 寺本 寺本
寺本 志隆 寺本 寺本 寺本 寺本
寺本 志隆 寺本 寺本 寺本 寺本
寺本 志隆 寺本 寺本 寺本 寺本
寺本 志隆 寺本 寺本 寺本 寺本
寺本 志隆 寺本 寺本 寺本 寺本
寺本 志隆 寺本 寺本 寺本 寺本
寺本 志隆 寺本 寺本 寺本 寺本
寺本 志隆 寺本 寺本 寺本 寺本
寺本 志隆 寺本 寺本 寺本 寺本

六百五十四歳少く死に後遺棄同日
に葬

忠行

唐九郎 初新十郎

右美作 深谷守

名徳院殿
大猷院殿(公)年少く初見○寛永十
四年十二月廿二日家督少重清○月
十六日年七月二日山田庄地○若果

之元年四月十日百目之社奉依
○寛文元年八月廿七日病中○之
六年二月廿七日死後蔵書山○
寺小葬

肥後守 渡江 洋雪

伊行

寛文元年十一月十九日書院
以元年十二月廿二日百目之
寛文元年十一月十七日相
書院

二年三月廿二日
 三月廿二日
 四月廿二日
 五月廿二日
 六月廿二日
 七月廿二日
 八月廿二日
 九月廿二日
 十月廿二日
 十一月廿二日
 十二月廿二日

元年七月廿二日
 二年八月廿二日
 三年九月廿二日
 四年十月廿二日
 五年十一月廿二日
 六年十二月廿二日
 七年正月廿二日
 八年二月廿二日
 九年三月廿二日
 十年四月廿二日
 十一年五月廿二日
 十二年六月廿二日

忠久

庄九郎 河内之郎 肉細助

延保九年九月廿九日初九日十月十二
年八月病歿 龍虎山 山徳寺
七月廿九日死 寺小葬

九八郎 初長之郎 年八郎

忠心

實納會新十郎主政二男

長子之室水本年八月初九日歿
少善清之日本十月廿九日初九日
日本十二月廿九日水本性祖の日本
九月廿九日初九日水本性祖の日本
月廿七日合三年歿の山徳元年有
七月廿九日合三年歿の日本七年七
月廿九日之別列金城川後日本
八月廿九日初九日十月廿九日初九日
日本八月九日死之年四月廿九日寺
小葬

忠令

庄九郎 初保藏

実約倉物十席市改之書

正徳四年十一月廿二日
請の月年午丁酉八月朔日
享保七年十一月廿八日
書の月十五年二月廿七日
西曆物依の月七年十一月廿九日

忠郷

對馬守 初改之 伊藏

庄九郎

上列江田城門後二月廿九日
七月廿八日陽暦の月八年二月十二日
正月及の元文二年二月十一日
同月十二月十六日布衣の元文二
年二月十三日大坂同身代付月
廿八日陽暦十月廿九日陽暦の月
付十一日死又松尾景國守小年

實日姓子牙以志二二會

享保三年十二月九日老若子〇元
文三年二月廿八日初見〇日
十一月二日家督少若若清〇實保元
年六月下九日田安初告行奠〇
日三年七月二日書流者〇
三年十二月十日佐ら多村御所殿
之母終〇宝曆六年十月日又品
院改〇日三年十二月十八日布初〇日

十年二月初自是月〇日三年

二月十日

博信流殿沖出権沖等送行法

會所用掛日年二月十日

有章及初沖相初等重石修理宗

増四普濟掛〇日年八月十日

四新舞掛懸賞時版〇日年二

年六月廿九日修後掛の賞時版

今之校存〇日年九月十日見

評文の長巻車坊後後場不月
月今又息服十二月翌日帰湯の
宝曆十三年二月十日日西條後
掛月又息服口千宝年二月
廿一日息服(再帰湯)あり
おん物ありと大思ふと今全
投書候の日本一月廿二日山崎書
しるし
東照文百中四等心勅命山崎

日本一月十一日帰湯同年七月
廿八日西條後後場管令格投別
時服二全抄投おん(西和二年
正月十日息服(西條)月廿八日
帰湯同年八月廿九日徳寺時
服二全抄投(西和)日本正月
不台
若菜後後場之服掛の日本十二月
十一日廿七日息服の日本

貞女之百濟之服の存貴可後二
〇日年十月十日百歩か文も向用
〇日年十二月十日百出船の意及乃
存貴可後二〇日年十二月十日
九日以下〇日年十二月十日
婚況出用お初可服の存〇日又
年二月十九日初九大為矣山候後
〇日年十二月十日百歩か文
〇日年十二月十日叙爵

對ら〇日年八月十日

公親渡殿清昇送法事外十月十日
可服の存〇日年十二月十日

承〇日

博信院致す〇日年十二月十日
〇日年十二月十日
大自符の天照〇日年十二月十日
聖旨依等〇日年十二月十日
〇日年十二月十日

七年八月八日皇旗奉納の日
十二月廿六日御能程人急おん
寛政元年十一月廿七日
日守小舞

忠勸^{三年}

二月九日 初吉
寛政御儀後 貞通十二
寛政十一年十一月廿七日

年三月廿一日初見の
年十二月十九日出仕
年二月四日以上の
二物九月九年十月
元年十月八日以上の
十日以上の寛政元年八月

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly vertical columns of characters.

東照宮御代



松平

源深

二五子石

源姓

家政 七中骨扇
九月之矣
翰獲

松平大炊助忠定二男十郎右馬

定政燭男

孫左美

忠政

初松平大炊助伊忠之九子也

戦場をめぐり天保十八年朔の
東平均の附はる依事未だ
百石の附十九年有る日
裁の文福元年朔の
江戸城水のりよ本番の
同を死と協の火番組頭
百石の伏見三ヶ年
番士数輩隈・郭とと出
代領より生るるも名

おと番以河結たる
く初らぬ府の上
石の参長み年七月
邊治の時山
人落城の若者
上言近敷の時
命とらるる
年知九百
百二日

小島

志光

孫千房

松平之殿如伊忠之屬家人也

市之入

志次

孝長之弟二月九日

姫若丸貞利命之孫也 沖雲の弟也

信成之弟也 同永年 初め関之系一

信成の同永年 初め大守也 祖次郎

十九年 初め信成の弟也 和之弟也 初め

大佐再礼信成也 初め信成の弟也

初め信成の弟也 初め信成の弟也

一月十二日死 享年小島

勝吉

信成也

信成の弟也 初め信成の弟也

因分取高子楊子の子孫傳るべし

忠重

山本所

東照文子忠重之旨石太田南場

山本所某之如九年平世

忠重

[Faint bleed-through text from the reverse side]

重德

集人正 初七午所 陸奥

元和六年十一月朔 家督の月見書

正月朔 大田書の月九年二月朔 所

全運送 南の寛永九年二月廿

番組 以の月十年朔 加藤之旨石

の月十九年朔 沼田の月十年十一月

朔 布衣の月十年朔 松本所

政与之隆家光 姓名 金澤の事

有く阿列徳治よりあるは阿波
列中井より大なるを教諭する
度と務むるに保正年朔日
大抵農と付とも海は日公年有
知る中後大なるを國庫
石大天并船屋の事男女之年正
日知る由月日之は事あり
及分より用く神石以下
カらりるをせしむるは月十日大

坂所より海にありて是なり
加秩子之音名は年十二月
叙爵年人心の日向年朔日
此名より海にありての温泉
より海にありては捕く大坂
には東首とありては海にあり
ちるありては寛文二年四月十日
病死する公の日は九年七月十九日
は白年とありては十年二月十日

清和の如叙の日年十二月十日同
如叙の之痛之年七月廿七日也
定年ありの日年十二月廿六日
ちり改の日年十二月廿二日母善花
取下谷吉守守佛宗より出所
因者渡河門あり中書後書所
久齊善信改考も安合もあつて
封侯の如改考はしりて力と核
まはしりて如叙の如叙の如叙の

改考以公とありて取指鞘の如
如叙の如叙の如叙の如叙の
依の如叙の如叙の如叙の如叙の
如叙の如叙の如叙の如叙の如叙の
同日大同元年八月廿五日
如叙の如叙の如叙の如叙の如叙の
大治元年八月廿五日
伊勢守日守村松平又卿也
如叙の如叙の如叙の如叙の如叙の

又このたのむ人とは、
 公卿の一人と云ふ。其の九郎と云ふは、
 公卿の一人と云ふ。其の九郎と云ふは、
 初仕をせしむる所より、
 宅より帰るるに、
 十一日、
 二月、
 柳の月、
 撰り用ひ、
 加賀の月、

日守事

重矩 上毛

孫左衛門 初友初助

之孫左衛門八月十四日
 之孫十二年、
 八月、
 六月、
 八月、
 十二月、

平尾村白峯年々小舞

日向寺 地権者 孫家

勅教

寶永三年平尾常春二男

宝永三年十月廿九日家書

〇同月廿九日初八〇〇〇〇〇〇〇〇

〇同月廿九日初八〇〇〇〇〇〇〇〇

〇同月廿九日初八〇〇〇〇〇〇〇〇

津園流教行初より向より之伏

見出船用之儀也〇同六年七月

津園流船泊大坂船中死す〇

同九年二月大坂所其行日本

同月廿九日出船日教書〇享保

十七年八月又白尾島上河橋迄

の事一之南に其行日本八月

廿八日信貴河原之令女教之文

之年二月廿八日書清書〇

因事年八月四日水陸運使より寛
保二年十二月十二日聖書後由以。
延享元年十一月廿八日尾列より使
行致息時以月廿七日御府。寛
文二年十一月廿六日山崎より居。月
年十一月十日百病免。同年年十二
月廿九日死。六十日來。谷高。運書。
小年

忠刻

主殿次初半御之殿

享保十二年二月廿八日初九日
二年九月十九日出仕。延文
元年九月十一日。以。河村。上。院。
同二年四月七日。河村。の。時。を。居。
河村。寺。の。お。少。く。河村。上。院。日
八日。今。御。殿。の。御。年。七月。有
使。令。御。殿。の。御。年。七月。有

○同二年二月九日皇太后御幸
海濱与狩之日皇太后御幸
○同二年二月晦日皇家松平之殿
忠徳の宮子とあり

夜多信 初改之也

常唯^并

○同二年十一月廿八日初元○寛延
二年二月八日皇家松平之殿
○同二年二月十二日皇家松平之殿

十一月八日布衣○同二年六月十日
初元○同二年十二月十二日初元
改元年十一月十日初元十七日初元
子孫

大物

常尹

実勅教之書

宝曆六年十二月十二日皇家松平之殿

合。女。水。二。年。十。二。月。十。二。日。沙。住。

陳。在。史。初。公。十。師。

吳。常。唯。二。曹。

皇曆十一年十二月廿五日
○女。水。二。年。十。二。月。十。二。日。沙。住。
合。○。實。及。二。年。十。二。月。十。八。日。以。上。
宗。馬。上。之。院。

勅。滿

常。憲。院。藏。版。



松。平。保。謙。高。五。百。石。

源。姓。松。平。保。謙。高。五。百。石。

松。平。集。人。心。忠。及。功。勞。

友。之。助。隆。曙。燈。

忠。賴。

元。祿。十。年。十。二。月。十。二。日。沙。住。

石○同平二年三月十日
中禮○元文四年三月三日
清○致江寬保元年十二月
正始志○寶曆三年二月
元七年八月家葬市谷和重寺

忠義

権國 良為 吉馬

二男惣領○寛保元年十二月
家督○初見○同三年三月
同三年二月 田安
書初勅○同五年五月
番○同五年十二月
院書○寶曆八年九月
道七力了○二十六年
書○明和元年十月

十五氣華 年必永隆焉

作五部

忠也

實者由初新五部光録改男
實曆十身八月廿三日智養子
○兩和元年同十二月五日太替
○同身同月廿日初見○同三年

八月二十日中書院書○同九年
十月廿九日吹天的時服式○安永
五年四月日老之成 累所後襲
實時服式○實改四年六月三日
同得之額○同身十二月十日
布衣○同十一年八月十四日
中殿之衣也○

勇次郎

忠年

寛政四年九月廿五日初見

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

○ 東海道代

松平 源次

源姓

源次

家督 信木 府
九三夫

松平 孫右衛門 忠年

忠昭

孫右衛門

父右衛門 忠昭 孫右衛門 忠年 忠昭

夫と松平主殿母伊左衛門内多
雨殿の内之次頼田能くく百六十八
歳父右雨殿をりく諸所はとい
東照宮(神皇正統記)傳の元和
四年(1112)日死之列部田能保母村
昭義寺に葬

改稱 淑子坊

右德院殿中代之列下り在出山名中殿
上二年八徳をまひひ武右衛門左衛門
中書。寛永九年(1632)正月に死す
六条河原に葬

改次 由之進

實 松平市左衛門忠次二男
養子。女坊。○
大猷院殿中代新(1611)為典。○由之進

元年十二月十八日死 年八 兼外 近 京
町 願 心 寺 以 葬

政 後

十 重 石 進 助 也 源 在 不 殊
兼 應 三 年 十 二 月 家 務 〇 免 文 之 子
十 二 月 廿 二 日 沙 書 院 番 〇 以 入 之 子 行
廿 二 日 以 是 米 石 俵 合 之 石 俵 〇 貞 享 二
年 十 二 月 十 二 日 桐 之 石 俵 番 〇 同 年
十 二 月 六 日 沙 書 院 番 〇 元 禄 六 年 八 月 廿

桐 之 同 沙 番 〇 以 年 十 月 十 二 日 沙 院
番 〇 元 禄 九 〇 同 七 年 十 月 十 二 日 沙 院
番 〇 享 保 六 年 十 二 月 廿 二 日 老 免 兼
賞 可 振 之 〇 以 元 年 十 二 月 七 日 沙 院
番 〇 十 二 月 十 二 日 死 七 年 或 兼 以 寺
行 兼

改 殺

集 心 云 統 市 〇 〇
實 如 心 云 統 市 〇 〇

元禄二年十二月廿七日養子○
初見○
十年六月廿九日初見同沖番○
一年六月廿一日初見同沖番○
一日沙小細方布衣○
一日日赤合○
結○
○
○
○
○
○

奉行同年九月叙爵○
十一月廿七日初見○
九月廿七日初見○

改尹

物之世 老之世

正徳四年八月廿六日次男初見○
七月廿六日初見○
廿一日沙小細組○
元禄二年十二月廿七日初見○

嘉智○三十一○二月廿四日也先四译院
 从○月八年十月廿二日大译盗械改坊
 加改○日九年六月廿六日增加改坊
 ○同年八月二日大译盗械改坊加改
 知多少因人云云有译月廿二日
 月○九月二日有译免○日十二年七月
 廿日
 博信院教译解音勤时胜三○日廿四年
 正月廿二日死卒九葬回云云

改春 要人

宽保三年定回月廿六日初九译纳右布
 衣○三十一二年九月廿九日译求九勤
 ○宝曆十年四月朔日二九译止宿译
 ○日十一年八月廿二日译命○日○九月
 六日译译译○日十一年四月四日译译
 ○同十二年十月廿七日病免○三十一
 三月廿四日死卒六葬回云云

改有

改有

改有

家曆十三年三月廿九日
月六日清宮系少人踏馬○大政二
年十月八日各給○寛政二年四月
五月十日

改周

要人

表之堅

寛政二年四月廿九日各給○四年

九月廿九日○寛政二年六月廿三日
性組○四年二月廿七日大の上境
河原式

掛札

武隔

世何も聖臨表出後甘表具

石川代々知事家々申今に取持

大猷院



松平

源姓

子

源姓

丸

松平 次男

忠

集

共

指

長

鶴

寛永二年（高橋殿）上洛の長父忠隆出巻垣
小く休年の高病重一身束縛しと
く山崎下りて是日王后以忠烈に病癒
之列吉田へ移城日同年九月廿六日
而して死長衣曰歳少成印紀父志
主年改意の古書少く九菜の可列
吉田へ移城見忠烈の殿知大弟の如
小住候十五菜の長持下へりり慶安二
年九月二十日初見の日

慶有院殿了りし月見の丸は湯書院番○
兼應元年十二月之百依○時く湯前
山をひく村藝米島お勤○此處に
年九月朔日の任使米約の長山法住
○万治二年三月七日卯丸小といふ村
的と院の御山書院番の内より村○
山隈の長お初湯威の旨くく慶安
可振示○寛文二年十二月在書中太病
歎以後上なき連下山医師村の忠信

ねん ○以年九月廿二日

浄植院教をも白縷子一卷 ○以○

十月廿八日 ○以 ○

十月桂昌院教をも丸入 ○以 ○

紙として張る教 ○以 ○

十月廿九日 ○以 ○

浄植院の旨 ○以 ○

毎日出物徒 ○以 ○

毎日出物徒 ○以 ○

の旨 ○以 ○

浄植院教 ○以 ○

十日 ○以 ○

妻 ○以 ○

会 ○以 ○

行 ○以 ○

九月 ○以 ○

と ○以 ○

と ○以 ○

六年二月廿日病免○同十年十二月
又日病免○同十年六月朔日死七十
九歳赤坂権地寺に葬

一祖父重房忠軍旗の暇と云ふ正
六年より文禄三年のまゝ十八年乃
中治と日死仕並西志冬共ある
と坊補仕

清康若師進出永正八年のり

東照宮薨御元和二年まゝく凡百有餘

年の事跡と編集仕初く或は

巻家忠日死と号し今に西物

石家忠日死編集の節

館林甲府西の西物と有るを

一天和年中

名徳院叙御治世の中編集探著して

よへき有作竹とくしよる叙探著
の叙の及多由免叙しよる重と作竹
らよし一叙出治しよる未傳仕は

徳祿の因りて後書未は貞享元年
二月より四月に於てまゝに出来ぬは
春末迄其後と号稱しては四月十三
日右東武實祿一と有りと云ふ
是より四月十二日右迷了と稱するは
威の旨且けりまゝ小石と云はれ
ふくく徳祿大時後之令に取ねん

忠成

其石馬

古く物

徳

徳史

延宝八年八月二十日八歳の時又忠冬(新
親)の子をなす(父)西来(子)石下(是)初
年の内大あ合(小)徳信(貞享)の
九月廿初(日)月九日(小)徳信(人)是
出(元祿)十年十一月(家)終(り)は
千石(内)に(子)石下(を)な(す)は
又(女)物(忠)禎(一)分(知)○(貞)享(十)年
二月

後有院殿中佛殿焼失(付)尚(ら)中(に)

八月一日初見○寛延二年六月二日
終○宝曆元年六月七日洛州加毒
日九月二日也喉河指之那織日二年
十月十六日瑞福○日六年八月十六日死
之干柴日寺以葬

又志蓮
利紀

大宮左衛門

庚 古井法隆寺利庸次男

宝曆六年六月十日色香子○日○

八月八日色香○日年十月廿八日死于
之柴日寺以葬

忠考

隼人 下柳与 惠之師

庚 松平之屋政忠刻之男

宝曆六年十月廿二日香子○日○十二
月二日色香○日年十月廿九日初見○
甲二年十月十日大寺中場見也○
明和二年六月廿八日公法法後日○十月

十九日布衣○同九年二月九日自是乃
人好也より尖人の名は津城ふよひく
出づの版上意の地は月朝日午後より○
安永二年八月廿日西人組に就○同六
年日光西休○同七年十月又日甲府勤
番より死に○十二年六月叙爵同二年
正月廿八日出陣討捕と申威令之役○天
明三年四月廿七日京師行見門○九
月廿九日喉ね死に○同四年四月

廿九日病死○同五年二月廿九日没座○
寛政元年三月十八日例と惣領ふ
成梅云小政○同十年四月廿一日死年
九歳死にちくき

忠寧 武部 基人 忠之部

丁卯之三月九日初見○同六年之
四月九日家母○同年八月十二日没座
加吉門○九月廿日死に



康忠君御代

松平

松平

高六

源姓

家茂

梅内

水天

菅原道玄公公出久松源氏在軍村道
定夏座相坊源法浩与雅親相
事久松丸久事久松丸久松丸
新所為政事... 雅親相
智多郡河古庄春二月於梅花不與
酒宴村之吹來春風落梅花一掃了

中溪浩書雅規物巨人與任之春勳勳
幼許所已之由京校乞梅評為家紋也
後此亦書定畫或河小野天海官全信
神酒以裁一河行方多外梅花瑞光來
畫中中浮自以河梅內小梅評之用
定畫三代

飯沼書 深耶

俊勝

初定俊長家 妻侍通院殿

沮又定畫乃大野飯沼每批致也俊勝
河梅束心○天文十八年秋

廣忠君頻年傳和歌以取和歌

廣忠君佛書其後之其後依

廣忠君命俊勝女子深九耶定貞取也

治女

廣忠君御離別後之其家其家嫁俊勝

○出流 二年二月

東照宮秋政大言城巡見之河

于智多助因命河古居彼母也

父俊勝一悲一秋河同母也

府右

东照文有评说之今行及有御爲
河母云昔曰 公曰種落之評見其由中
法作之時

东照官常史之曰我兄弟自今後宜
乃同姓之兄弟固得松平氏且作白三列
平尚之後振之乃創業之資母云曰
枕中長福之南平生自祿祿中有
石湯之在平之志之河後勝正就進
上西權勢也脱向公等同平治之公統
内之公之事且公作舊日之旁先之

东照文評評之換田類古石河石在
洛道終一日付是故乃有同世安否送衣
取第者以三士乃使後府評評之時
又統及之有氏之 評法河同平

东照文進發于东之河後勝率之軍
勢并河石之勢之先陣攻山中醫
王山墨河後勝乃先吃款去自城壁
上之造突讓之肩裡後勝斬其論提
之拍揮曰城已破早平大敢然治同今
服於氏之固謀策遂殺將族其而也之

郡城拔之可也而郡城拔後復修城是
時之在城常為首也其後清使其
子之所居郡城之尾則河古居在也
亦九郡城之○天守六年二月三日
死尾則智多郡城於河古居一葬

定貞

久松源九郎

定貞為尾則之國將也其父為太田尉
則大坂天皇也其父則源氏下野也其母
為源氏源氏源氏源氏源氏源氏源氏

長今生書之定貞及源氏○天
正二年七月十九日於大坂自書

康元

因幡守

三郎右衛門

少將

康元官源國母也永祿三年父
佐源守備勝佐也

康元入源氏之官源氏見佐源同姓
以源氏之名久松源氏及源氏稱
号源氏之成下源氏源氏源氏源氏
康元一字源氏源氏源氏源氏源氏

清河縣令金田勳負言木小左衛門坂部
源内平野夫南在田久玄清屬康元
○康元三列御船之始在江
東照官是時下御船之始 成城書
清津出之始 伴村也其行大須賀書
左衛門善清其行内友平左衛門之御
清之清下其行伴村德義其始 伴村
小田原海之御船之始在江○之能之
奉味方原合戰之時味方級軍之御
東照天御退口以馬原外之河康元我

馬之平亦分以之長成如康元我
至金田勳負言附我之康元之亦清
殘兵相御河死仕以時也
東照官清善代之侍才覺採有之付康
元我至之附江成下○天正年中政
尾川康系治之成河康元我
的令將兵致向乃使戶田三所右衛門
清水控之助副之不日改其○遠列
天正江成四貴之時我康元之江籠中在江
○長條合戰也其籠中在江○甲別

小田原一初回

合戦後世供武田勝頼滅亡以後少間
後及石津城之北為並○虎杖城
沖陣時も出陣仕○小田原陣も
城後七月分上月と小田原城も並
万部一仕並多し事も勅を以

東照官作小田原救代成功小田原
名方侍較多有方取為石抱下首
因念あり依抱小田原千人○奥羽九
津陣小田原三力多由小田原○関
ヶ原陣小田原江戸沖城小田原仕業

事と勅し福清小田原上女坊子田中
之致お梅坊子中村武致お梅坊子今
唐元舞の

東照美上入忠義仕上小田原在三人
味方仕後備唐元忠留者小田原思百
中上意○下総國実宿城地武力不
下並後奥羽九津陣河唐元之士
百平新勢平上子修人軍勢多
汗感之唐元石平多舟仔共列陣
沖陣後後実宿近隣白二力

八幡あり坂合にあり○号、長年中
 示照宮作り母云城に依ん城下に
 住居○同七年八月廿九日行被地遊去
 行送葬、後撰行
 示照宮作りも行送り行常あり其
 規式者重也 傳通院殿方口言提地
 経以園石建立一与辨法經与同年
 十月
 示照宮出候白河江戸より候
 示照宮作り曰候法経城小麻実右宇雨

あり法經与今実右、法經与先岳与
 方及下名作か、依、天機、傳通院
 先岳より号○廣長八年八月十四日
 入下武藏一して死法経列置右一寺と
 立宗英寺と号被寺小葬

忠良

甲斐守

三郎左衛門

信長

号長八年園京出陣、時を傳○同
 八年八月家督○大坂冬を傳信長
 ○同友軍陣、時被取、号長○元和

二年三月方石加錫師之我必汝とす乃
大臣忠良の命を辱し辱しとて大徳二回
に罷以侍侍りて馬場へ候も更徳二回
御免○元和二年二月八日御免并吳
服取致○御新地、山滝移舟免はり二
十故と○寛永元年八月十八日早と
威死清原大松寺を葬

因幡守 入那

忠意

初忠良

寛永元年八月廿九日寅未初忠良八又

子分知○心保曰年八月十三日死女
八束梅坊法泉とて葬羽子とて
城地収ふと助以絶

佐信守 教守 全入

康尚

初康尚

実忠良次男

享安元年二月廿二日家へ勅目とて
思下とて方石○同二年二月廿八日既判
長崎城地へとて侍に追て四九五下
是地名とて後御免とて在御免○

万治元年十一月廿七日依海号○延宝八
年正月廿三日依初溪号○大坂加
毒二方初元大自出号○貞享二年
二月廿七日○元禄九年二月廿七日
依小日向德号三森

忠

充 長号 大藏内 依海号 祐茂

貞享二年八月廿七日○元禄十八年二月
初七日初元三人切腹付在将左人仕
重付之付成地号上○享保十三年

二月廿七日初元三人切腹付在将左人仕

康

又号

初号 实忠 初号 白男

元禄十八年八月廿七日 思在 元禄十八
年○正徳二年十二月廿八日死 元禄十八
年 田古川曹溪号三森

康

因号 伊号 安号 忠号

中務内 送汤 忠山

元禄十八年八月廿七日 思在 元禄十八

山供泊 神兒 ○寛政二年六月廿八日
 總河版 ○之後版 以積短何得渴

康威

國威号 三房太郎 常助
 実康三曰男

安永八年十二月廿初見 ○寛政元年

八月廿五日中奥出住 ○同二年二月廿

八日家語 ○同年十月廿七日宿位 ○

寛政七年小倉京以麻栲出住

代 涂紙内

東照系
 印 左刀 一腰

自傳版

大秋版

最古版

印 卷

有徳版

博信版

後明版

印 卷

印 卷

印 卷

廣全版

二版

一版

一版

一版

一版

一版

一版

一版

一版

一版

日 市波物院 三

日 市波物院 一

日 市波物院 一

日 市波物院 一

日 市波物院 一

日 市波物院 一

日 市波物院 一

日 市波物院 一

日 市波物院 一

市波物院

台徳院殿御代

松平 之松

源姓

与又子水

松後梅自

松平因懐与康之男甲斐守忠良
二男

未女

源仁
意闲

忠節

文和九年

台徳院殿御代上落
忠節之御(弟)康之元年又子水

地○寛永六年江戸宛石垣宮傳
 役付河原末太人浪子河原宮傳織作
 ○同十一年江戸宮傳石垣宮傳
 一太人浪子河原宮傳織作
 場所付相方小方江傳付相方小方江
 名 上意と云ふ分○同十二年江戸
 伝宮傳織作江傳付相方小方江
 織作○同十六年江戸宛石垣宮傳
 傳付相方小方江○同十七年江戸宛
 ○貞享元年四月廿九日死廿四日葬

長中子院方森

忠勝

古丸島 才之郎 未女

之實又大河内合長傳久徳大男

年月日不知養子○同曆二年初
 見○同家公六年七月廿二日家傳
 合○同家公六月十九日

教有院殿法中上野火入敷○同
 年宣旨十日西國橋掛直下以○
 貞享元年二月廿八日火清段○同
 年十二月十八日布衣○元禄十二年

正月廿八日... 二月十二日... 死... 宋

忠昌

宋

元... 正月... 二月... 宋

忠盈

宋

宋

宋... 七月... 宋

三年... 正月... 二月... 宋

忠庸

宋

宋

宋

本世官兩



初年名

萬石千石

源姓

家教 梅海内

初年德政守定勝四男

信濃守

長子師

定實

始定國

德政守定勝居城遠江國掛城

在長元九年時

東出郡川表書山雁野為成郡

雁場表 百五十四日 廢府上之

上之意 廢長十身 廢府

所城上在出 廢 所創 山養守

長元十三年 元更 成長仕

十六年 同十七年 叙爵信

使守。大坂西陣中依。元和元年

五月三日 於大和口道河守表顯

武勇 武初生捕三之甲首指之級 自身討九力侍重勳小武具未之重務 和年

陸守守政定澄文之通 政宗先手

片倉中守重經 澄文或通所持。

同日也。

東出郡所獲年得志事首七夜 廢檢

横出甚若團八尹松北文之通 同山 獲

年 崩初馬立止其揚不并 退顯武

東寺多内閣守利家於文之通水
野日名并勝成於文之通垣州後守
直家於文之通道通野○右其師
陣之首小難事主主先陣進進雖
頭武重於花中軍法家 中勘氣
年○其主先隱政守定り方中執店
は其主了る

東寺多内閣守利家於文之通水

其也其也○元和年中 中書院書
五頭五 作中のり 病氣主不相助
只隱政守定り立示存執國書名
其其存執以之其主下處上侯度下
其其主其 中書院○寛永元年
其其十五其存執國長鴻知り
其其不其下置○同二年長鴻城
其其領邦二万石其其下置其其 其其

山内氏病氣... 源寺
寛永九年三月廿九日
同國宗... 源寺

一 惣所教散部卷六分 一腰

但長式尺五寸
銘真字西口

一 服差 一腰

但長式尺三寸
銘三井久

百服差... 定學方

一 界一赤銅中教散鈔鈔 一枚

但一德兼作中付

東照宮御筆

一 山經冊 一枚

一 朝里... 結... 助...

南時源氏天定學方三齋

台邊院藏書

一 內經冊

一枚

一 臺邊院藏書

一通

臺邊院藏書

定之

新嘉坡門

鐵部

父在後以豆前伯父和年隱岐守家
在存豫玉和山子世在子家○實支
五年七月十七日在 石金山中
又配宗合○吾年去又配○同年
九月三日初見○同年十二月廿
五日武平儀中○元祿十一年

七月三日中藏末地方由具
式年右。同身七月十二日致上。同
十二年三月廿八日九十家
若川東海寺中定惠院

至馬 鶴年代 兵次 禪山

定由

始定周

後部

寛文十年七月十二日初七日元

定負 二男 次郎 歩
西井雅之及妻人下衣

禄十年七月十二日家母忌辰。
同身八月十四日家母忌辰。寛永
二年九月初七日。同
身十二月十九日布衣。同四
身七月二十日。同。寛元
二年五月初七日。同。寛元
二年七月初七日。同。寛元
二年八月初七日。同。寛元

十五。歸謁。○其後三年七月五
日。先皇薨。無之。所使。門。下。廿八日
歸謁。○同五年五月廿三日。致仕
○同年十月廿五日。死。七十二年。
葬。同寺。

定相

三馬長壽。任職要人。外記

元禄十三年七月十二日。初見。○享
保五年五月廿三日。死。○同七
年十二月二十九日。死。三十三。
同寺。

定藏

長門守 金部 式部

兼部 長門守 主水正

酒井雅樂親孝家本
實者松平次郎左衛門定直五男

其曆三年五月廿二日養子。同
年八月九日初見。同七年十二月
廿八日家母。同十一年四月十八日
中身出性。同十三年四月廿三日
中成先子封留翠才三。時服三。同
十七年十二月十二日叙爵。延享
三年四月廿三日。實中出性但書。以。

實曆元年正月十五日。實中書院書
頭。同九年十一月廿九日。書院。
同十一年六月廿三日。病免。明和八
年九月廿三日。死。享年八十二。葬。同。

末馬

定榮

延享三年三月廿三日初見。實

二年八月廿九日死三十八家葬
同寺

寅 虎金吾 日見 御孫

定

始定洋 定虎

寶曆二年十二月廿二日西二百里惣領
○明和二年五月廿三日初見。同
八年十二月二十日赤部 赤部 ○安永二年
二月十八日火事場見之。同三

年八月十日病之。同八年九月
廿八日伊先 伊先 山鉄炮頭。同年十月
二十日附盜賊改。同年十二月
十二日布衣。寛政元年四月
十八日吹上乗馬。同月廿六日附
盜賊改。同年五月十六日附盜
賊改。同月廿九日相見世上靜 静
一段之成 成 思 思 百 百 禊 禊 詞。同二年

三〇廿五、盜賊改之。〇同三年
四月七日、火附盜賊改。〇同四年五月
十一日、山元。〇同七年三月、五集金
多切執子、埋及古物。〇同八年八月
廿七日、病名是令。〇同九年九月、寺
元五年、五集、并同寺

定太師

御記

定朝

寛政三年十二月廿二日初見。〇同
八年十二月廿三日、家持、由普信。〇
同^十九年九月廿五日、吹上、大の時、腹二

台德院殿代

和年之松 萬千五百石

源姓 果夜梅聯内

和年隱政守定勝三男

陸登守 吉立郎 陸 不白

定政

初定政

元和三年 父定揚 江府 宗勳

十一家之初見。○山嶺之南所馬一
元元拜領父字二日侍執國業名爲
城。○寬永三年一再名府其後序
府江兵士處。○同十年二月
大敵院殿於所前
東也常所物之所譯柄依焉 所崇
所屬從。○同年十二月寂爵。

同十二年二月五千石。○同
年三月十六日所屬從隊頭。○
同年七月十日所屬從隊頭。○
同十二年七月廿八日侍執長鳴
城主七千石。○同年秋領長
長鳴之水。堤其外被損。修補
之段達上聞。○同十三年四月爲
所助力白銀二萬枚拜領。○山嶺

相渡中執役并存掃部頭直方存差
中一由同月十日又詔諫書与相
認上書二通右同家自以候者差
出依一町領城知江府屋敷武器
等事書云 百廿日十八日同姓
隱政与定行上取下百廿日可了并起与
上書云云蒙 定行上取下百廿日
連上取下百廿日并起上取下百廿日

巖有後殿 中寺 蒙 上意為祭
二千俵中。寛文十二年十一月
廿九日三年三條并侍子園松常
信寺

一 大藏院殿 并 拜領
一 惣書目 朽佛鑑 二本

但一本柄袋形是羅紗物
一本一率朝之形不詳

一 御鏡神甲冑 一領

石所中口月身存年中近被持之度焼失

一 寺目薄銀所役持為書中銀一掛

百七身存年中焼失

秋上上品

慶安三年十月十七日三河灘山

東宮前所官前石給龍秋備

同三年九月廿日

嚴有後殿西九所移徒之并為口祝成

惣利子抄薄繪所役持銀金具所腰

物掛一對秋上

數馬 吉五郎 大藏 官軒

定知 初定主

久定政一日和山教居之廿五了了。好。

萬治元年三月廿九日身定持

一日身書百回年九月十七日十

延慶元年九月廿日初見。延慶元
年十一月十九日。父道世之後。年
二千俵。丙午。五百俵。丙午。定清
五百俵。丙午。寄合。元禄十年
十一月廿日。致江。寛永五年
三月。丙午。死。二十四家。葬。品川
海晏寺

定清

初見

源實朝 和帝 初見 傳實朝

萬治元年九月廿日。兄。初見
○延慶元年十二月十九日。寄合
五百俵。丙午。元禄二年九月
丙午。死。三十三家。葬。同寺。子。無
家。絶

父壽合。享保十年三月十七日
卒。一室葬同寺。

定賢

豫州 種如 多神 桃雨

享保十年五月七日。家葬。同寺。
同享八年十月十五日。初見。自享二
年九月十三日。出仕。同三

享八年十月十五日。初見。自享二
年九月十三日。出仕。同三
同寺。

定得

初定得

大隅守 種如 多神 桃雨

數馬 豫州 美濃守 大素

寶曆五年十二月二十日家持上書信
○同三年三月十五日初見。○同年
十一月五日東信。○同十二年十一月
十四日大炊頭利里頭唐津城
水野和泉守忠在り候出用。○同十
三年三月十五日山脈。○同年
六月廿七日湯。○同十四年正月
十一日山脈。○同年七月八日

和泉守兼祐頭出羽山形縣松平
肥後守宗頭上り渡出用。○同九年
八月廿七日。○同年十一月十五日湯
湯。○同年十二月十五日西丸山見
。○同十八日布石。○同和二年九月
廿八日西丸山見。○同二年九月
廿八日。○同四年
九月十日浦宿。○安永三年

四月廿三日。小普得寺。○同年
十二月十三日。叙爵美濃守。右衛門
中。西。善清。中。用。掛。教。度。拜。領。物。
○同四年十二月十八日。大陽。改。名。
○同四年四月廿三日。西。九。新。所。
為。頭。○同三年十一月。病。之。是。合。
○同四年四月廿九日。致。仕。○同五年
十二月廿三日。元。正。十四日。致。仕。同。日。

定慮
藤中
要之
數馬

省者增山對馬守。○同
明和八年八月。高。養。子。○安永
二年三月廿五日。初。見。○天明四
年四月廿九日。為。持。少。普。行。信。○寬
政元年三月。海。中。保。性。組。○同

七年七月八日花三十七家發
同寺

親之取

定節

寛政七年十月三日發符。同日
十二日其子往見其病依候上

卷有院

松平 久松

源姓 菅原

三平右

女紋梅梅内

松平久松与定河之界中勢の補

始定道
定昌

中勢の補

伊豫与

そ取与

源姓与

修理元 未女千勝

延宝四年十月廿六日中家松平澄河与

延陳頌知四方石...
命○初見○元祿五年...
中興性○以年...
年十二月七日叙爵...
病免中興性...
加番口年九月...
九年十月...
七年二月...
正月九日...

時...
保六年...
死...
...
...

定武

修理 之助

享保九年七月...
四月...
八月...
...

同寺... 彼地... 死... 年...

定秀

伯耆守... 内膳... 龜松

庚 定昌九男

元文元年十一月九日... 延享二年十二月六日... 十二月九日... 甲子年...

年... 龜松

定利

龜松

西和元年... 安永元年... 四月...

定能

信元

實 小笠原...

東照宮中代

松平 久松

高千石

源姓

家紋 梅輪肉

た近衛女將松平隠岐守定勝に男

始定小
定実

信濃守 長十郎

父定勝居城を以て越前城とあり九
菜の村

東照宮掛川表（中野郡の長子）
ゆゑ出づる中野見諸府（一）
志とありありと慶長十年諸府（出
中野）
大奥にあり成長十六歳の時（十七年
叙爵位法也。○大坂あり中野出候。○元
和元年八月廿日大和に及の寺表あり
いゝ武勇とありいゝい時生指之人
甲首十一級自身討敵いゝい傳。○

日七日

東照宮掛川表（中野郡の長子）
妻持ふまゝいゝいゝ横田長右衛門尹松次
一通中野縣平定右所定外あり西野と
いゝい武勇とありいゝい中野國橋と
女流又一通中野縣平定右所定外あり西野と
合は通中野縣平定右所定外あり西野と
右の長子掛川表（一）
旁と願すといゝい中野軍法と祀いゝ

初筆とありあり宗足隠後与定何
機飛ちし書

東照文沖地貴故清免七くく色以戸
考(出)之和年申沙書院由共以保付
りま下病病等身定何立取伊保不
素名久在誠所く上存とろく忠
く清等とありあり。○寛永元年
十月日伊保西よとひく七子石河く
日云く日云長流誠等以知武万石た

中く○日九年三月廿一日死之午二系伊
勢國素名初東方村照源寺に葬

一 眼壳 長三寸五分余 浪兼久 一 勝

石濱府大奥に在る山長殿に由

一 鞘是夜以中作葉草柄有貝虫透二病
相成し由

二 葱浦紋散鞘巻古刀 一 勝

但長即人守
詠真之字多し見

一 甲分一赤銅出紋散鉄刀 一 枚

但極宗他

東照宮御筆

一 沖經冊

一 投

名徳院御筆

一 沖經冊

一 投

内親元

大學

多右衛門

寛

物吉文 後任 女心

臨行宮の伊藤小松守の御筆

十三年の文松平越中守の定規在る御筆

國宗名入在越中守七年七月七日

是是壽合。四年九月六日初見

三月廿二日御筆

七月廿日康平末を宋地へ

○寛永元年六月廿七日御筆

同二年十二月廿二日御筆

木宗家御筆

定譜

寛永元年六月廿七日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日

玉振 九道 源右文 後 後

定為

源右文 新次郎 賴母 園十郎
寛永二年二月八日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日
八月廿七日

其月八日布衣○寛保二年十二月廿八日
死○死後○此後地○日平年八月廿
日○死後○日平年十二月廿八日○死後
○日平年十二月廿八日○死後○日平年
十二月廿八日○死後○日平年十二月廿八日

定長

教員

源右文

寛保二年十二月廿八日○死後○日平年
十二月廿八日○死後○日平年十二月廿八日

沙書院番○西和年七月廿八日○死後○日平年
十二月廿八日○死後○日平年十二月廿八日

元城

源右門

寛保二年十二月廿八日○死後○日平年
十二月廿八日○死後○日平年十二月廿八日
十二月廿八日○死後○日平年十二月廿八日
十二月廿八日○死後○日平年十二月廿八日
十二月廿八日○死後○日平年十二月廿八日

年七月二日

定

源吉更 朝賀

主

賴母 幸十郎

○九月廿九日功見 ○日八年十月

○九年八月廿九日功

○九年九月廿九日功

○九年十月廿九日功

○九年十一月廿九日功

○九年十二月廿九日功
○九年正月廿九日功
○九年二月廿九日功
○九年三月廿九日功
○九年四月廿九日功
○九年五月廿九日功
○九年六月廿九日功
○九年七月廿九日功
○九年八月廿九日功
○九年九月廿九日功
○九年十月廿九日功
○九年十一月廿九日功
○九年十二月廿九日功

卷有

松平久松

源姓

高天原

系

紫梅所
以

松平源之師康後之流

任人松平豊前守時義次男

時陽

豊前守

時義

時陽

寛永九年九月日送源氏續○

一日清書院考○正德六年七月廿九
日○一〇〇〇〇

小次郎 右次郎

勝南

天保永正二年四月廿日清小姓組○享保二
年十二月廿日在籍○同元年三月之免
二年三月廿日在籍

織部 右次郎

勝忠

實 升戶作惣与以階次男
享保四年六月廿日在籍○同
十六年三月廿日清小姓組○同
十月廿日病免○同和九年四月十日隱
居○同〇七月廿日享保死○一〇〇〇〇

右次郎 之水

勝久

享保永正元年正月廿日在籍

明和六年二月廿日在籍○同九年

四月廿日家信小書信○万永元年十月
廿日沙去院毒○四月六日六月七日也納
九月○十月十六日布衣○同六年八月
廿四日死二年之歲以与尔矣

猪秀

織部

秋之序

佐吉

每永元年十月廿日家信小書信○七月
廿年四月廿日行小性信○八月○月
廿日以上大的河信式○寛政二年

七月廿日病知尔小書信

嚴直院殿

和年久和

高五百六

源姓

家茂 字梅鉢 永樂殿

和年世前守勝義三男

朱十郎

勝卿

萬治三年四月十日 外中

受^{十四}百俵。寛文十年
十二月十八日父^三百五
百俵。收云。貞享三年
五月九日^二百俵。病之
普清。正徳五年八月五日
卒。法名^一。中谷台泉寺

源三郎 半十郎

勝央

寛文十一年九月十二日
元禄十五年九月十九日
寛永三年四月六日
同七年四月十一日
将服武。正徳五年十月十二日
家持。寛保十一年九月十二日

新野守備有國門御 上院今當
本方古秘時服二。元文四年六月
十五日死。七年葬。同寺。

源宗

勝友

實者丹羽中老書門心道源男

其傳十一年六月九日智長養子

○元文四年九月五日家持。同
年十一月七日。初見。同五年
十一月廿二日。中住祖。實曆十一
年九月廿九日。病歿。中書持。○
同十二年十一月九日。死。享年十九。葬
葬。同寺。

勝方

源二師

又八師

寶曆十二年十二月廿七日。冬舞。同
十三年三月廿八日。初見。同。七年七月
廿五日。中書院書。明和七年四月
廿日。吹上草麻及物三。安永三年
十一月五日。吹上草麻及物武。
同五年十二月十一日。吹上大。

時服二。同。三年十月廿七日。
吹上丸物及物三。寬政二年
四月三日。中書院。同。十年
三月十二日。元平八年。氣。葬
同寺。

勝美

榮之丞

延寶二年三月十五日
百六十六。同日七年六月十四日
中惟其以。天和二年四月廿日
五百不。元禄元年十一月
廿百駿府中城書。八月十二日
病之。宣永二年二月十日
葬三田洲海寺

十十部

啓
實卷三

定員

實者如米佐渡守康為三田
貞享二年九月晦。禪養子
。同四年九月三日初見。宣永
二年四月晦。不辨。寺清。出留
守居。配。貞享十五年十一月
三日致。延享二年二月十日

二十月十二日此五十三家并三
田井海寺

龍後守 熊壽 才郎

定胤 始定將

明和二年四月廿五日 留男物領。
同四年三月十九日 初見。同五
年四月五日 家持。同九年九

月廿六日 粟中書院書。同三年
二月廿三日 中納戸。同年十月
十八日 布衣。安永五年正月廿日
日吉市紙。天明五年四月七日 奉
家持多々 三千石云々 成。同七年
四月七日 新 頭。寛政七年
二月八日 百人組 頭。同九年四
月十二日 中 性 頭 書 頭 新 後 守 政



小八郎

定往

天正元年五月二日受取。同日
受取。六月廿八日受取。六月廿五
日受取。六月廿六日受取。

利之如

千五郎

定往



實持増山對馬守公資五男

天明八年三月晦日發書子。

同身六月廿一日初見

